

平成29年8月吉日

映像ご担当者各位
会員様各位

国際企業映像協会（ITVA-日本）
会長井上尋夫

＝2017年度国際企業映像協会（ITVA-日本）セミナー開催のご案内＝
===過去のコンテスト作品に学ぶ===

「第7回ITVA-日本CONTEST上位入賞作品上映会」

拝啓 時下、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、国際企業映像協会では、第7回ITVA-日本CONTEST上位入賞作品の上映会を下記の通り開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。

企業映像は、映像を使った表現という点では映画やテレビ放送と同じですが、その求められる内容はまったく異なります。社員やステークスホルダーなど、明確なターゲットに厳選されたメッセージを伝え、より具体的な効果が出ることを求められ作られています。

本上映会では、2005年度から最新の2016年度までのコンテスト上位入賞作品10本を一挙に上映いたします。日頃あまり目にすることのできない企業映像を視聴できるチャンスです。また各企業が映像をどのように工夫・活用しているのか、制作のポイントなど合わせて解説致します。

視聴後のフリーディスカッションでは、事前にいただいた質問にお答えするとともに、企業映像の制作・活用方法などについて参加者と幅広い意見交換を予定しております。

企業の映像担当者や個人で映像を制作している方にとっては、新しい企画や発想のヒントを掴む絶好のチャンスになると思います。また同じような悩みを持つ、さまざまなジャンルの皆様が集まる機会でもあります。この機会に沢山のご参加頂けますことを心よりお待ち申し上げます。

敬具

記

- 日時：2017年8月31日（木曜日）14:00～17:00
（終了時間は目安となっています。ご了承下さい。）
- 会場：東京都千代田区丸の内2-6-2 MCコミュニケーションズ 会議室
- 参加費：無料
- 申込方法：国際企業映像協会（ITVA-日本）事務局まで、事前申し込み必須
メール（jimukyoku@itva-jp.com）・HP（フォーム）よりお申し込みください。
- 申込締切：2017年8月25日（金曜日）

「第7回 ITVA-日本CONTEST上位入賞作品上映会」

===過去のコンテスト作品に学ぶ===

■当日のタイムスケジュール（予定）

13:30～開場

14:00～「ITVA-日本CONTEST上位入賞作品上映会」上映第2部（4本）

15:00～休憩

15:10～「ITVA-日本CONTEST上位入賞作品上映会」上映第3部（3本）

16:00～休憩

16:10～「ITVA-日本CONTEST上位入賞作品上映会」上映第3部（2本）

16:50～質疑応答(フリーディスカッション)最新映像機器情報のお知らせ

17:00～終了

【★上映作品プロフィール】

★2016年度 社外コミュニケーション部門・金賞

エヌ・ティ・ティ ラーニングシステムズ株式会社

つなぐ。まもる。そして、つよくなる。

-NTT東日本・NTT西日本のユニバーサルサービス-

(16分49秒)

◆作品内容と背景

従来からNTT東日本が担うユニバーサルサービスを、その姿を象徴するメッセージ「つなぐ。まもる。そして、つよくなる。」とともに全国各地の通信サービスの維持に向けた取り組みを紹介するプロモーション映像。

- 「第1章：安心を届ける。-つなぐ」山間部や離島などの通信サービス維持のための取り組みを紹介
- 「第2章：冬の厳しさの中で。-まもる。」自然災害に負けないよう豪雪地帯での通信サービス維持に向けた取り組みを紹介。
- 「第3章：災害に備える。-そして、つよくなる。」さまざまな災害の備えとして、通信サービスの強化に向けた取り組みを紹介。
- 「終章：エピローグ -笑顔のために。」オリジナル書き下ろしの楽曲に乗せたダイジェスト構成。

◆作品のねらい

NTT東日本・NTT西日本の通信網の維持・保守への取り組みを紹介し、ユニバーサルサービスの更なるお客様への理解浸透を図る

★2016年度 社外コミュニケーション部門・銅賞

株式会社チェリービー

プレミアム・ボディバランス採用動画

(3分24秒)

◆作品内容と背景

会社の理念に共感した人材を採用したかった。それまでは理念に共感した人が入ってきていなかったため、育成しても辞めていく人材がいた。育成にもコストがかかるため、改善したいと考えていた。会社の理念をわかりやすく伝えるために動画がよいと考えた。

◆作品のねらい

会社の理念に共感した多くの学生に応募してもらおう。また理念に共感した上で入社してもらおうことで、退職者を減らす。

★2016年度 社内コミュニケーション部門・銀賞

本田技研工業株式会社

突撃! となりのおしごと 鈴鹿サーキットランド

(6分29秒)

◆作品内容と背景

Hondaグループ内の仕事を、今回紹介した職場の人が次に行きたい職場を選定し、たすき渡し形式で紹介していく。今回はその作品の中の1点を応募しています。

- ・他事業所だけでなく、隣接部署の業務内容がわからない従業員が多い
- ・自分の業務との関係性や、社内の違う部署への興味が低い
- ・興味があっても、関連がない部署を知る機会がない

◆作品のねらい

- ・他部署への理解を深め、組織の壁のない、良いものづくりへと発展を目指す
- ・自分たちの職場が紹介されることで、自分の業務を見つめなおし、誇りに思ってもらおう
- ・職場が紹介されていくことで他部署の従業員に興味をもってもらい、HondaTVをより身近に感じてもらう

★2016年度 社外コミュニケーション部門・銀賞

ギリアド・サイエンシズ株式会社

30年のきせき

(14分45秒)

◆作品内容と背景

C型肝炎とその家族が、病気に立ち向かう姿を描いたショートドラマ。30年前から肝炎に感染していたことが判明した、ある65歳の女性。その告白を聞いた夫はショックを受けるが、噂に聞いた肝炎を治せる新薬の情報を頼りに、夫婦で医師を訪ねる。弱気になる妻をしっかりと支える夫と、思いやりのある娘の存在が心温まる。「C型肝炎は治癒を目指せる時代になった」ことがもたらす幸せを感動的に表現した。定期開催の社内キックオフミーティングにおいて上映する映像として企画立案しました。C型肝炎の特効薬を開発したギリアド・サイエンシズは、世界のC型肝炎の撲滅を目指し、医療従事者に向けて科学的見地からこの薬の価値を広める営業活動に重点を置いています。今回の映像企画は、例年よりもっと印象的で新しい演出を求めドラマという構成に挑戦しました。

◆作品のねらい

弊社のミッションは「効果的な治療法のない患者に対する革新的な治療を開発し、患者さんに届け、患者さんとその家族に笑顔をもたらす」です。患者さんが主役のドラマであることによって「医療従事者へ向けた営業活動も重要だが、その向こうにいる患者さんとそのご家族を忘れてはならない」というメッセージを込めています。

★2016年度 社内コミュニケーション部門・銅賞・WEB審査員賞

株式会社JSOL

社員出演ムービー：5年以内のチャレンジ宣言

(3分51秒)

◆作品内容と背景

- ・5年以内にチャレンジしたいことを、ボールリレーの形式で個人およびチーム単位でつなぐ動画
- ・若手から役員層、様々な部署から有志が集まり、集まった人同士でチャレンジ目標や演出を決めて演じている。
- ・ボールリレーは出演者のチャレンジや想いをつなげていくという意味があり、社内の一体感を表現している。
- ・また、間に少しポップなシーン入れることで、当社で働く楽しさや「こんなこともやっていいのか。」という会社の意思に共感してもらう。会社を少しでも明るい雰囲気にしたという有志社員の想いから、ムービー制作企画がスタート。社員自らがボトムアップによりチャレンジできる会社であることを、全社員に再認識してもらう。ムービー制作によって、部署間の壁をこわし、生き活きとした会社の雰囲気を社内外に伝える。

◆作品のねらい

3つのターゲット層それぞれに応じて、下記目的を定義

- ・当社社員・・・会社の雰囲気向上を図り、一体感の醸成することで、従業員満足度を向上させる。
- ・家族や友人・・・楽しそうな会社で働いていることを共有し、仕事に対する共感力や安心感を持ってもらう。
- ・社外関係者・・・当社社員の人物像や団結力をアピールし、当社のファンになってもらう。

★2016年度 社内コミュニケーション部門・グランプリ

きらやか銀行

きらやかビデオニュース

No.90 「2016 きらやか銀行 硬式野球部の熱い夏」

(17分55秒)

◆作品内容と背景

1952年創部のきらやか銀行 硬式野球部。平成28年6月、都市対抗野球二次予選で優勝し、山形県勢として66年ぶりの都市対抗野球本戦出場。本戦では出場50回の門真市代表パナソニックと対戦し、タイブレークのみ4-3で勝利。山形県初の本戦勝利となり、初出場・初勝利の野球部のニュースは地元山形を大きく盛り上げた。きらやか銀行野球部は合併時の平成19年に野球部からクラブチームに移行。練習もままならない日々が続いた。2年後クラブチームから野球部へと復活したが、東北地区は激戦地区であり本戦への壁は厚く、2011年・2013年に第1代表決定戦に辿り着くものの、「あと一步」の壁を乗り越えられなかった。経営が「全行員がひとつになれるものが野球だった」とクラブチームから野球部に戻したチームが都市対抗野球本戦で活躍する7年間を追った。

◆作品のねらい

当行野球部の全国大会出場により、更に一体感を育み、全行員が事象を共有することを目的として作成。「自分たちの銀行の野球部が全国大会で活躍した」という銀行で働いている誇りを全行員が再認識するため。

★2010年度 社内コミュニケーション部門・グランプリ

相鉄ホールディングス株式会社 相鉄グループCSR全員研修用ビデオ

「相鉄グループのCSR コンプライアンス編」

(約19分)

◆作品内容・企画背景

相鉄グループ社員として日常注意すべき「コンプライアンス抵触の事例」を6話にわたって具体的に紹介。抵触した主人公（社員）がその都度自分の失敗に気づいて反省するというエピソードを繰り返し、相鉄グループとして定めている「コンプライアンスのセルフチェック」を行うことの重要性を訴える。相鉄グループではグループ全体でCSR取り組みを進めており、グループ社員のCSR意識向上のため、毎年「CSR全員研修」と称し、テーマを絞って作成したビデオを全スタッフに視聴させている。

Corporate Social Responsibilityの概念は一見抽象的で一般社員に十分浸透しているとは言えず、特に「コンプライアンス」は「法令遵守」としばしば訳されることもあり、「自分には余り関係の無い大きな問題」だと思われている嫌いがある。この為できるだけ具体的な例を用い、一般社員の日常業務の中でも意識すべき事項であることをアピールした。尚、グループ企業の業種・職種が多岐に渡る中、如何に多数の対象者に共感を持って見て貰えるかが課題の1つ。

◆作品の狙い

最終的には、相鉄グループ社員のコンプライアンス意識の向上、各職場における労働基準法抵触等、コンプライアンス抵触の予防。意識向上が目的のため数値目標は設定していない。視聴後、グループ社員の間でビデオ内容が「話題に」なり、これによって「コンプライアンス」や「セルフチェック」がより意識されるようになることを目指している。

★2012年度社内コミュニケーション・金賞

メディアフォー・ユー株式会社

XCom Global “Stay Connected. Globally.”

(20分)

◆作品内容・背景

2013年東証マザーズ上場予定の同社。

事業規模拡大のため、西村社長がアメリカに赴任したため、日本にいる従業員に自らの考えや、仕事への姿勢が伝えきれていないとの相談があった。上場を目前に、改めて社長の思いを社員に浸透させるために、映像制作プロジェクトがスタート。スペイン・バルセロナで開催される世界最大規模のIT通信業界展示会。ここに出展する等、世界への挑戦を志すエクスコム西村社長。彼は事業規模拡大のため、アメリカにも会社を設立し、移住。巧みな交渉術でアメリカでの事業も順調に推移し、会社の規模も拡大した。しかし、事業拡大し増える社員一人ひとりに対し、自分の想いや理念が伝わっていないのではないかという疑問を抱いていた。ある日、研修のためアメリカへ呼び寄せた社員を翌日に帰国させるという事件が起こる。厳しすぎると思える西村社長の社員への教育方針。彼自身の育った環境、競争を勝ち抜くための哲学がその根底にあった。

◆作品の狙い

西村社長の仕事への姿勢、考え方に迫るため、密着口ケを提案。密着口ケを行い、現在の想い、抱えている問題、プライベートといったリアルな部分まで撮影。その人の想いを伝えるには、その人そのものを知ってもらうことが一番だと考え、密着口ケを行い、ドキュメンタリー映像で収めることを提案。

★2014年度社内コミュニケーション・金賞

明治安田生命震災復興VIDEO

「アドバイザーの記録」2014

(20分)

◆内容・背景

明治安田生命の営業職員である「マイライフプランアドバイザー（略称：アドバイザー）」と呼ばれる保険外交業職員の女性たち、本作は東北3県にて現在も活躍するアドバイザーの東日本大震災における保険業務遂行に関する記録映像です。自らも被災しながらお客さま、そして仲間や家族の安否確認に奔走。対面営業のチャンネルを生かし、逆境を乗り越え、その結果震災発生から3ヵ月半という驚異の速さでほぼ全契約に相当する61万件の個人保険に関し対応確認（99%）を成し遂げました。震災からちょうど1000日を経た2013年暮れより、彼女たちならび関係者への取材ロケを敢行、インタビュー形式で当事者の生の声を記録構成しています。

◆作品の狙い

目に見えない商品であり、その商品価値を保険金・給付金の請求をしない限りお客さまに実感してもらうことができない生命保険、全国的外交業務員に対して、職業人としての誇りと使命感を堂々と讃え、稔持（きょうじ）を与えるべく制作しました。自らの仲間たちがその時の想いを語る映像を見て、自分たちの使命は何なのか？を再認識しお客さまとの「対面アフターフォロー」を自ら考えて動くということ。また、全国結集大会に参加し、これを視聴した4000名のアドバイザーだけではなく、彼女たちを中心にその想いを全国の3万人のアドバイザーたちに伝播することを期待して制作しました。

~~~~~  
※お申込みは、メール、もしくはHPのフォームより、お願い致します。

[お申込み先] 国際企業映像協会（ITVA-日本）事務局

〒105-0013 東京都港区浜松町1-16-4 エルコムウォーク2F

TEL：03-6809-2540

Mail：jimukyoku@itva-jp.com

\*\*\*\*\*